

ふなばし 船橋市

千葉県の北西部に位置し、首都に近く、鉄道網などが発達していることから、さまざまな産業が発達に営まれている。江戸時代には、成田山に参拝する佐倉街道の宿場町として栄え、昭和12年に市制が施行された。平成15年には県内初の「中核市」になり、平成19年4月に「市制施行70周年」の佳節を刻んだ。

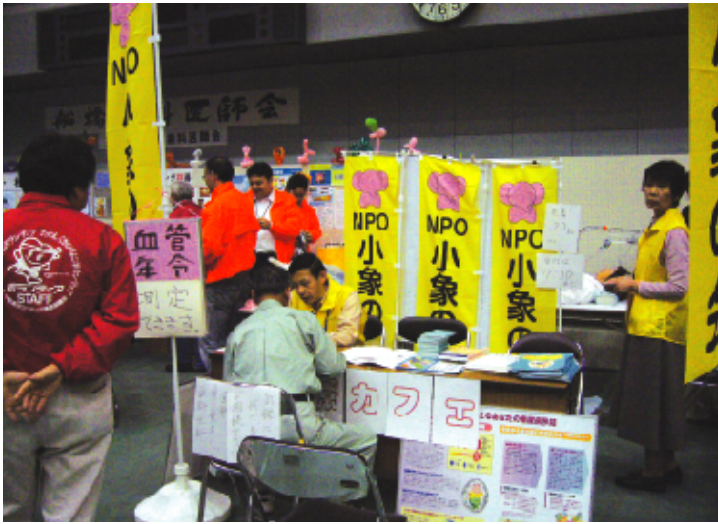


面積：約85.6平方km

総人口：約58.6万人

市の木：サザンカ

市の花：カザグルマ、ヒマワリ



「ふなばし健康まつり2007」会場で

NPO法人 生活習慣病防止に取り組む 市民と医療者の会 小象の会

「小児肥満」は 現代社会への警鐘

「生活習慣病の予防は大人になる前から」ということから、あらゆる世代への健康教育をボランティア活動として推進しているのが、「小象の会」(理事長・金塚 東医師)です。

2005年6月の発足以来、毎年秋に開催される「船橋子育て応援メッセ」や「ふなばし健康まつり」など、船橋市や千葉市を舞台に生活習慣病予防の啓発活動を行ってきました。現在は、県内外に活動の輪を広げています。

2005年9月には特定非営利法人(NPO)の認証を得て、「生活習慣病防止に取り組む市民と医療者の会」としてスタート。NPO法人の正式名称が示すように、同会は市民と医療者が協力して、地域の生活習慣病

を防止する活動を目指すことを主眼にしています。「小象の会」は同会の愛称で、子ども達が本来、あるべき生活スタイル(3度の食事をし、学校で勉強をし、戸外で遊びあるいは部活動で汗を流し、夜は疲れて早く寝る)を取り戻し、健康的に成長することを願って名付けられました。

生活習慣病は、いわば本人の生活スタイルが原因で起きる病気の総称ですが、それ以上に、肉を中心とした欧米型の食事、歩くことが少なくなった車社会、さらに24時間起きている繁華街など、個人の生活スタイルの改善だけでは追いつかない社会的要因が複雑に絡んでいます。そうした社会的要因に影響を受けやすいのが子ども達です。「小象の会」の活動は、将来の生活習慣病の蔓延防止のための「免疫づくり」といって良いでしょう。

「わかる健康教育」が今、求められています。



千葉県医師会
名誉会長
渡辺 武

健康は、なろうと努力をする日々の積み重ねが大事です。極言すれば365日、健康のことを考えて行動をするということです。ほとんどの人は年中、お金のことを考えて行動しているのですから、お金よりも大事な健康について考えられないわけがありません。いや、考えるべきです。

私も「小象の会」の会員の一人ですが、健康教育は子ども時代にこそ必要だと痛感しています。大人になると、何だかんだと理屈をつけ、実行しなくなります。子ども達には、「健康は自分のためだけでなく、お友達にとっても大事です。みんなで健康の輪づくりをしましょう」と、うるさいほど語りかける必要があります。大人がうるさくいうことほど、子ども達はそれほど大事なことなんだと理解するのです。今、求められているのは、子ども達にわかる健康教育です。

また、千葉ロッテ球団もマリンスタジアムでの「生活習慣病予防啓発活動」への協力など、

積極的に支援に乗り出してきています。「小象の会」が目指す「市民が気軽に医療情報を得られるコミュニティ・コアの創出」は着実に、そして広範に展開されつつあります。

「小象の会」の会員は現在、約200名。異色の会員としては、昨年に同会の趣旨に賛同して自ら入会したフレディ・スウェーネ駐日デンマーク大使で、大使館あげて「小象の会」を応援してくれているそうです。

「小象の会」の医療者会員は、地域と密着した活動を惜しみません。自らどこへでも出向いて行つて話をし、交流の輪を広げています。この「自ら出向く」という姿勢に、かつての町医者というイメージを重ねて、共感を覚える市民も多いようです。

市民が気軽に 医療情報を得られる 「コミュニティ・コア」の創出へ

積極的に支援に乗り出してきています。「小象の会」が目指す「市民が気軽に医療情報を得られるコミュニティ・コア（核）の創出」は着実に、そして広範に展開されつつあります。



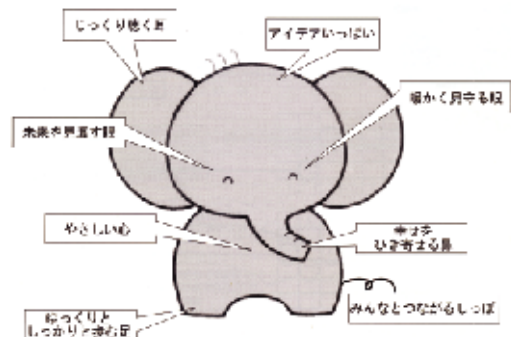
船橋子育て応援メッセに出展。会員の食育パペット板お婆さん。



千葉ロッテ球団と提携し、マリンスタジアムで「生活習慣病予防啓発活動」を展開

昨年、同会の会員栄養士3名が「千葉県栄養改善功労者知事表彰」を受け、厚労省主催の船橋市内の高校生の生活習慣病健診に協力した同会に「千葉県医師会学術奨励賞」が授与されました。

小象の会



<http://www.kozonokai.org>

船橋市ガイド

Funabashi City

船橋という市名は、昔、海老川に小舟を渡して橋代わりにしたことに由来します。古代の海老川は、川幅が広く、水量も多かったようです。

江戸時代には、海老川を挟んで東側（現在の宮本）が「5の目」、西側（現在の本町・湊町）が「9の目」にそれぞれ市が開かれていました。船橋村（船橋宿）は、これらの地域と海神村を加えた一帯の総称でした。

海神（かいじん）は昔は、「わたつみ」と呼んでいました。日本武尊がこの地にやって来た時、海上に光り輝く舟があり、近づいてみると舟柱に神鏡がかつていて、それを持ち帰って祀った場所にちなんだ地名が付いたという伝説があります。

各地に難読地名がありますが、

船橋市の場合、最難読地名といえば「飯山満」です。これを「はさま」と読める人は船橋市内でも限られています。近年、地下鉄の駅ができてからは読めるよ



海老川

うになった人も少なくないでしょうが、初めて目にした人は人名ではないかと思うはず。

鈴身（すずみ）町は、昔、「行々林」という地名でした。これ

は「おどろばやし」と読みます。行けども行けども林が続くので「驚いた」という説が有力ですが、この読み方自体がもう驚き以外の何ものでもありません。



船橋大神宮の相撲大会

江戸時代、船橋は佐倉道（成田道）、東金街道、千葉街道、行徳街道が巡る交通の要衝でした。

特に、佐倉道は成田道とも呼ばれ、江戸からの成田不動尊の参

拜客で賑わいました。参拜客は船橋宿で一泊して成田へ向かったため、沿道には商家や旅籠が立ち並びました。

交通の要衝としての船橋の好立地は現在にも及び、ＪＲ総武線・武蔵野線・京葉線、京成本線、東武野田線、新京成線、北総線、東葉高速線、東西線と市内を縦横に巡っています。

平成19年4月、船橋市は「市制施行70周年」を迎えました。昭和22年に4万人だった人口は70年後に58万人強に膨れ上がりました。千葉県初の中核市としての船橋は、近代的な街並みを持つ一方、船橋大神宮の相撲大会のように古い歴史を偲ばせる古風な顔も併せ持つ市です。

※船橋市「市制施行70周年記念誌」を参考にさせていただきました。